



学校だより

No.549

令和 5年 5月31日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一 雄

教育目標 : 元気な子ども ・ 考える子ども ・ 思いやる子ども

学校がきれいな理由

副校長 新保 有希子

本校の校舎は、築53年です。なかなか年季の入った建物です。半世紀以上、たくさんの子供たちを受け入れ見守ってきました。

「新しい」とは言えない校舎です。傷んでいるところも古くなっているところも沢山あり、小さな修繕を繰り返しているのが現状です。でも、私たちの校舎はいつもとてもきれいなのです。子供たちに「学校の自慢は？」と聞くと、「いつもきれいなこと」と答える子もいます。「古いけどきれい」…その秘密をお伝えしようと思います。

本校は、多くの木々や草花に囲まれとても緑が豊かです。校庭には、140本ほどの樹木があります。花壇や校門の近くには、四季折々の花がきれいに咲き誇っています。今の時期は、バラやマリーゴールド、生け垣のさつきなど、とても色鮮やかです。季節ごとに姿を変える木々や草花は、ただそこにあるだけでとても心を癒やしてくれます。子供たちは毎日美しい自然を目にして心の中で「きれいだなあ」と感じていることと思います。

校舎内の廊下はとても幅が広く設計されています。中央階段はゆったりとした造りで、初めて本校にいらした方は「階段広くていいですね」とおっしゃいます。廊下や階段に限らず、トイレや玄関など、学校の隅々までをいつもきれいにしてくださっているのが、用務主事さん方です。子供たちが登校する前から、授業中も下校後も、子供たちが目にし手にする場所をとても丁寧にお掃除してくれています。昨年度は、美化委員会の児童から主事さん方へ「いつもきれいにしてくれてありがとう」という感謝状を渡していました。

主事さん方が学校をきれいにしてくださっている姿を見ているからか、放課後の清掃時間の子供たちもとても熱心に掃除をしています。給食や図工の時間など、何かをこぼしてしまうようなときも、すぐにさっときれいにする子はめずらしくありません。みんなきれいな学校を大切にしているのです。

古いものでも丁寧に扱えば長く使うことができるという考え方は、昔から受け継ぐ日本人らしさかもしれません。サッカーのワールドカップの試合後に、スタジアムを掃除していた日本人が世界的に賞賛されたのも、小学校時代に自分たちの学校を自分たちできれいにしていた経験がいかされているのだろうな、とも思います。

本校がきれいなヒミツは、みんなで過ごす場所を大切にしようとするみんなの気持ちの現れです。



6月の生活目標「気持ちのよいあいさつをしよう」

気持ちのよいあいさつをするためには、発する人と受け取る人の両方の気持ちが、明るく健やかであることや、あいさつを発する人と受け取る人との両方が、「互いを思いやる気持ちをもつこと」が大切になります。ご家庭でも、「あいさつ」について考える機会があるとよいと思います。